

スマートシティ施策のKPI設定指針 (第2版)

2023年4月

本版は、2022年4月に公表したスマートシティ施策のKPI設定指針について、加筆・修正を行ったものです。

本指針の解説動画、本指針を活用した事例集も公開しておりますので、活用にあたり参考としてください。

目次

I	はじめに	
1	本書の目的	1
2	本書の特徴	1
3	ロジックモデルとは	2
4	本書の使い方	3
II	ロジックモデルの作成方法	
1	評価対象施策の抽出	4
2	施策の分野の確認	7
3	施策の内容等の確認	11
4	サービス分野と基盤分野のアウトカムの違いについて	12
5	サービス分野のロジックモデルと評価の考え方について	14
6	基盤分野のロジックモデルと評価の考え方について	16
7	ロジックモデルの作成方法について	17
III	KPIの設定方法	
1	KPI設定に関する考え方について	21
2	評価指標の考え方について	23
3	サービス分野の評価指標	26
a	モビリティ	30
b	環境/エネルギー	34
c	防災/防犯	38
d	インフラ/施設	40
e	健康/医療	44
f	産業/経済	46
g	地域社会	51
h	教育/文化	53

目次

i	行政.....	56
4	基盤分野の評価指標.....	58
a	IT基盤.....	59
b	運営体制.....	61
c	人材.....	63
5	因果関係の確認方法（例）.....	64
IV 参考		
1	参考文献一覧.....	65
2	国内外のSC・都市評価に関する先行事例.....	66

1. 本書の目的

全国各地でスマートシティの取組みが進んでいる一方で、その評価枠組みは、まだ熟度が高まっていない地域が多く、施策評価やそれによる施策の改善を行う必要があると考えられます。スマートシティ関連施策のPDCA促進、およびEBPM浸透を図るため、地域（コンソーシアム等）の進める多様なスマートシティ関連施策に対する適切な評価の枠組み・評価指標を示し、また、これを通じて、各地で適切な施策評価および評価に基づいた施策改善を促進することが本書の目的です。

2. 本書の特徴

本書の特徴は以下3点です。

- ① ロジックモデルを用いて、施策の評価を論理的にやりやすくする方法を示します。
 - ・・・ロジックモデルの作り方やポイントを解説します。ロジックモデルを適切に組むことができれば、施策が最終的に目指す効果の実現に向けて改善すべき点が見つかりやすくなります。ロジックモデルは、施策の立案時や見直し時に有効な「見える化」の方法のひとつです。
- ② 施策の評価にふさわしい評価指標・KPIの設定方法を整理します。
 - ・・・ロジックモデルの各段階において、適切な成果が出ているかを確認するためにKPIを設定します。本書ではその設定方法やポイントを解説します。KPIが適切に設定されると、施策評価の客観性が高まります。また、エビデンス（データ）に基づいた政策推進（EBPM）が可能となります。
- ③ 評価指標・KPIに準選択制を導入し、指標としての共通性と地域の独自性のバランスをとります。
 - ・・・多様な都市の状況を尊重しつつも、評価軸の示唆を含め、評価指標を「推奨」「選択」「任意」の3段階に分けて設定します。

◆3つの評価指標

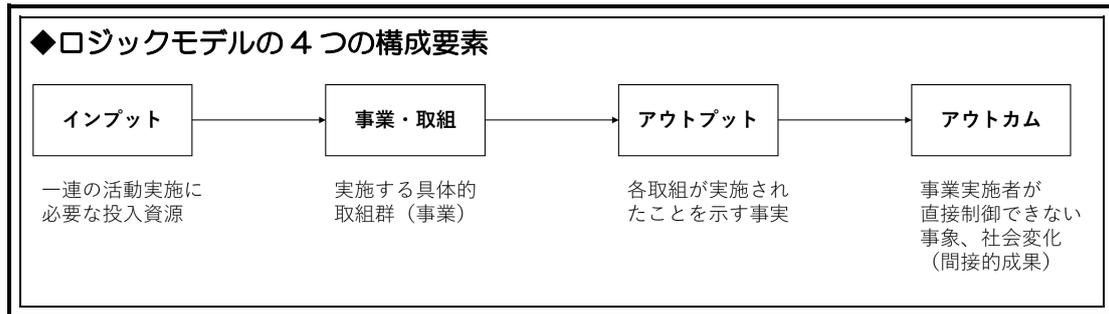
「推奨指標」・・・すべての地域が取り入れることが望ましい評価指標

「選択指標」・・・地域のKPI設定の労力を軽減するため、評価指標の候補が提示され、その中から地域が適切なものを選択するタイプの評価指標

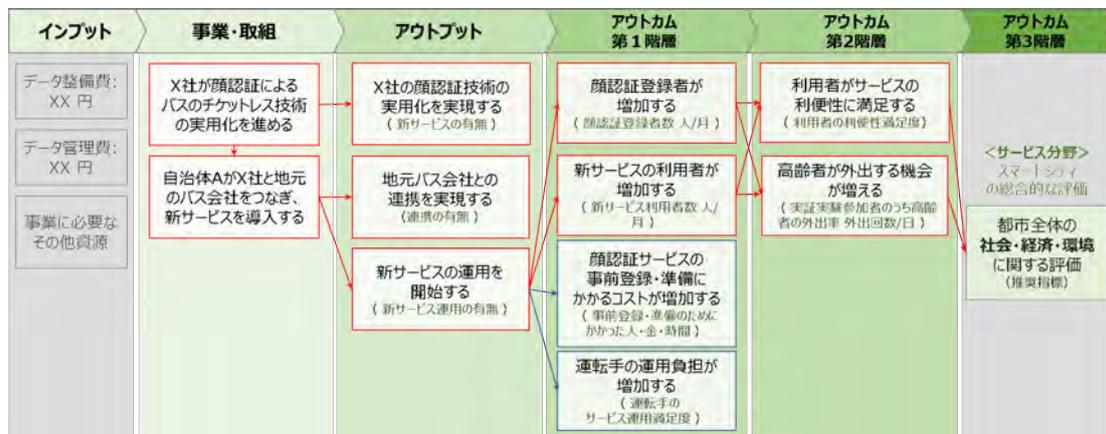
「任意指標」・・・都市の独自性に柔軟に合わせるため、地域が、みずから自由に考案し設定する評価指標

3. ロジックモデルについて

ロジックモデルとは、事業や組織が、最終的に目指す「変化・効果」の実現に向けた道筋を体系的に図示化したもので、①施策を概念化し、設計上の欠陥や問題点を発見できる、②インパクト評価等のプログラム評価の準備ができる、③論理的に施策を立案できる（PDCAの”C→A”を論理的に行える）などの策定のメリットがあります。¹²



上記を踏まえた本書で目指すロジックモデルの完成イメージは以下です（「顔認証の実用化による公共交通の利便性向上と高齢者の外出促進」という施策を例とします。）。

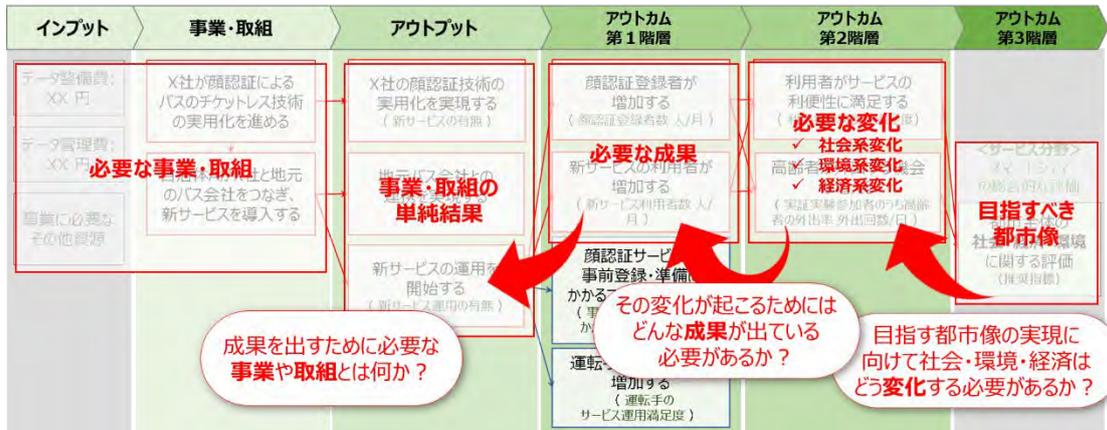


¹ 日本財団 「ロジックモデル作成ガイド」, 文部科学省 HP

² 佐藤徹, 「エビデンスに基づく自治体政策入門ーロジックモデルの作り方・活かし方」, 公職研, 2021

1 はじめに

また、ロジックモデルはゴールから逆算して見たり発想したりするとわかりやすい時もあるため、考えにくいときはアウトカム第3階層から俯瞰して見てみてください。



4. 本書の使い方

II章以降でロジックモデル作成・KPI設定の具体的なやり方について説明しますが、以下の点に留意してください。

- ① Stepの順序は目安とし、前後に往復しながら検討を深めてください。
 - ・・・ロジックモデルの作成とKPI設定の一般的な流れをStepに沿って整理していますが、検討を進める中での気づきも多いと思われます。その場合、遡って再検討を行っても全く問題ありません。ぜひStepを行きつ戻りつしながら検討を深めてください。
- ② 方法論の統一をお願いします。
 - ・・・ロジックモデルは、目的や使い方によって、内容や抽象度、作り方等が異なることがあります。全体として齟齬のない評価体系をつくることを目指しておりますため、本書の方法論への統一にご協力をお願いいたします。
- ③ 複数メンバーによる作業(ディスカッション)を推奨します。
 - ・・・作業負荷分散だけでなく、視野・知見の偏りの防止や、施策本来の目的・ゴール等を複数のメンバーで再確認・共有する等のメリットがあります。